

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県伊是名島

増産プロジェクトにおける令和6年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況

生産計画の
達成状況等

1 令和6年産の生産実績

	収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
H29年産実績	71	68	248	388	5,579	4,938	5,120	5,172	3,977	3,380	12,715	20,072
H30年産実績	41	68	292	400	6,371	4,999	5,467	5,480	2,588	3,382	15,972	21,942
R元年産実績	36	38	304	378	5,113	3,348	4,885	4,754	1,832	1,261	14,858	17,950
R2年産実績	56	59	267	382	7,170	4,761	5,432	5,582	4,011	2,830	14,492	21,333
R3年産実績	45	82	289	416	6,493	5,488	6,169	6,069	2,908	4,527	17,802	25,237
R4年度実績	34	49	307	390	6,438	5,078	5,625	5,627	2,170	2,488	17,279	21,937
R5年増産実績	42	41	292	375	5,361	4,211	4,852	4,840	2,266	1,714	14,147	18,127
R6年増産計画	100	45	215	360	8,190	4,622	6,340	6,639	8,190	2,080	13,630	23,900
R6年増産実績	26	43	311	381	7,318	5,347	2,325	5,764	1,892	2,325	17,732	21,950
(対計画比%)	(25.9)	(96.6)	(144.9)	(105.8)	(89.4)	(115.7)	(36.7)	(86.8)	(23.1)	(111.8)	(130.1)	(91.8)
(対前年比%)	(61.2)	(106.9)	(106.8)	(101.7)	(136.5)	(127.0)	(47.9)	(119.1)	(83.5)	(135.7)	(125.3)	(121.1)

2 その他指標の動向 令和5年産→令和6年産

・株出栽培の割合	77.8%	→	81.8%	・さとうきび作農家戸数	202戸	→	193戸
・平均糖度	15.3度	→	13.7度				

増産目標に対する位置づけ	<p>令和6年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった</p> <table border="1" data-bbox="472 240 1133 352"> <thead> <tr> <th></th> <th>収穫面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(計画)</td> <td>360ha</td> <td>6,639kg/10a</td> <td>23,900t</td> </tr> <tr> <td>(実績)</td> <td>381ha</td> <td>5,764kg/10a</td> <td>21,950t</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和6年産の当初の増産目標は収穫面積360ha、単収6.639t/10a、生産量23,900トン进行計画しており、関係者一体となって増産に取り組んだが、干ばつ等もあり単収が5.764トン/10a、生産量21,949トン(対計画比91%)の実績となり、目標達成には至らなかった。 令和7年産の増産目標は23,900トンと設定し、肥培管理の徹底及びかん水を促し、目標達成に向けた取組を実施する。</p>		収穫面積	単収	生産量	(計画)	360ha	6,639kg/10a	23,900t	(実績)	381ha	5,764kg/10a	21,950t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	360ha	6,639kg/10a	23,900t										
(実績)	381ha	5,764kg/10a	21,950t										
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手不足を解消するため、担い手や新規就農者の確保が必要である ・ オペレーターの技術向上及び育成が課題である ・ 肥培管理(雑草防除)が徹底されていないことから収穫が困難な圃場がある 												
令和6年産における取組方針	<p>主なさとうきび生産振興策として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化に対応するため、担い手及び新規就農者の支援を引き続き推進していく ・ 島内でオペレーターの研修会等を実施し、オペレーターの技術向上・育成に努める ・ 肥培管理の重要性を生産農家へ周知及び指導に努める 												

(1) 経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
① 効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同防除一斉防除の実施により農家の作業効率化と軽減化を図った ・さとうきび植付作業を共同で実施し、農家の作業効率化と軽減化を図った <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="439 435 1391 608"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>13</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>農業法人</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足を解消するため、担い手や新規就農者の確保が必要である ・受委託組織や生産法人の育成及び強化に取り組む必要がある 		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	認定農業者	13	2	4	11	12	12	12	11	農業法人	6	7	7	7	7	7	7	7	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に対応するため、担い手及び新規就農者の支援を引き続き推進していく ・農業生産法人の連携を促し、受委託作業の体制及び農作業の合理化を推進していく 																											
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																																																
認定農業者	13	2	4	11	12	12	12	11																																																
農業法人	6	7	7	7	7	7	7	7																																																
② 農業共済制度への加入促進	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関による農業共済制度の案内及び戸別訪問により加入促進を実施した <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="439 911 1391 1283"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 (30年産)</th> <th>H30 (R元年産)</th> <th>R元 (R2年産)</th> <th>R2 (R3年産)</th> <th>R3 (R4年産)</th> <th>R4 (R5年産)</th> <th>R5 (R6年産)</th> <th>R6 (R7年産)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加入戸数 (戸)</td> <td>134</td> <td>114</td> <td>101</td> <td>95</td> <td>91</td> <td>77</td> <td>72</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>戸数引受率 (%)</td> <td>60.9</td> <td>52.3</td> <td>49.0</td> <td>44.2</td> <td>46.0</td> <td>35.8</td> <td>35.0</td> <td>31.8</td> </tr> <tr> <td>引受面積 (ha)</td> <td>230</td> <td>170</td> <td>154</td> <td>150</td> <td>149</td> <td>134</td> <td>112</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>面積引受率 (%)</td> <td>57.5</td> <td>44.9</td> <td>40.2</td> <td>36.0</td> <td>41.6</td> <td>32.3</td> <td>29.4</td> <td>24.3</td> </tr> <tr> <td>共済金額 (千円)</td> <td>179,598</td> <td>143,303</td> <td>139,125</td> <td>139,311</td> <td>116,120</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">注) R4～R6 年産の数値については概算値</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の高齢化に伴い、農業共済加入への意識が低下している 		H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	R6 (R7年産)	加入戸数 (戸)	134	114	101	95	91	77	72	63	戸数引受率 (%)	60.9	52.3	49.0	44.2	46.0	35.8	35.0	31.8	引受面積 (ha)	230	170	154	150	149	134	112	91	面積引受率 (%)	57.5	44.9	40.2	36.0	41.6	32.3	29.4	24.3	共済金額 (千円)	179,598	143,303	139,125	139,311	116,120	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・農業共済組合と連携し、事業説明会・地域懇談会を開催し、引受拡大を図る
	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	R6 (R7年産)																																																
加入戸数 (戸)	134	114	101	95	91	77	72	63																																																
戸数引受率 (%)	60.9	52.3	49.0	44.2	46.0	35.8	35.0	31.8																																																
引受面積 (ha)	230	170	154	150	149	134	112	91																																																
面積引受率 (%)	57.5	44.9	40.2	36.0	41.6	32.3	29.4	24.3																																																
共済金額 (千円)	179,598	143,303	139,125	139,311	116,120	-	-	-																																																

(2) 生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題								今後の取組方向																																				
①気象災害に強い生産基盤の整備	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かんがい排水施設の修繕に努めた ・台風被害後や干ばつ時期のかん水啓発に努めた <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="439 451 1391 804"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 実績</th> <th>H30 実績</th> <th>R元 実績</th> <th>R2 実績</th> <th>R3 実績</th> <th>R4 実績</th> <th>R5 見込</th> <th>R6 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほ場整備率</td> <td>99.2</td> <td>99.2</td> <td>99.2</td> <td>99.2</td> <td>99.2</td> <td>99.5</td> <td>99.5</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>水源整備率</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>畑地かんがい整備率</td> <td>90.9</td> <td>90.9</td> <td>90.9</td> <td>90.9</td> <td>90.9</td> <td>90.9</td> <td>90.9</td> <td>90.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・干ばつ時に早めのかん水など迅速な対応、被害の軽減化を図る必要がある ・台風後にかん水による塩害被害軽減かを周知する必要がある 									H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込	R6 見込	ほ場整備率	99.2	99.2	99.2	99.2	99.2	99.5	99.5	100.0	水源整備率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	畑地かんがい整備率	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	<ul style="list-style-type: none"> ・土地改良区と連携し、かん水方法や施設利用率の向上に努める ・かん水の重要性を啓発するとともに、農業用タンクや点滴かんがい等の普及に努める
	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込	R6 見込																																					
ほ場整備率	99.2	99.2	99.2	99.2	99.2	99.5	99.5	100.0																																					
水源整備率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0																																					
畑地かんがい整備率	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9																																					

<p>②機械化一貫体系の確立</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受委託組織が植付作業や共同防除を受託し、作業の効率化を図った ・スマート農業研修会を開催し、農作業の合理化に努めた。 <p>【目標の達成状況】 (単位:台、ha、%)</p> <table border="1" data-bbox="436 375 1388 646"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハーベスタ 稼働台数</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>23</td> <td>23</td> <td>22</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫面積</td> <td>324</td> <td>327</td> <td>324</td> <td>314</td> <td>338</td> <td>351</td> <td>333</td> <td>330</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫率(面積)</td> <td>83.6</td> <td>81.8</td> <td>85.7</td> <td>82.2</td> <td>81.2</td> <td>84.2</td> <td>89.0</td> <td>86.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の高齢化による労働力不足 ・オペレーターの技術向上及び育成が課題である 		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	ハーベスタ 稼働台数	22	22	24	24	23	23	22	23	ハーベスタ 収穫面積	324	327	324	314	338	351	333	330	ハーベスタ 収穫率(面積)	83.6	81.8	85.7	82.2	81.2	84.2	89.0	86.6	<ul style="list-style-type: none"> ・島内でオペレーターの研修会等を実施し、オペレーターの技術向上・育成に努める ・関係機関と連携し機械化一貫体系の確立に努める
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																														
ハーベスタ 稼働台数	22	22	24	24	23	23	22	23																														
ハーベスタ 収穫面積	324	327	324	314	338	351	333	330																														
ハーベスタ 収穫率(面積)	83.6	81.8	85.7	82.2	81.2	84.2	89.0	86.6																														
<p>③地力の増進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥センターから、堆肥を供給し散布に努めた ・補助事業を活用し、島外から2,000tの堆肥導入を実施した <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑肥等の栽培で地力の維持、増進を図る農家が少ないため、普及啓発を図る必要がある ・村内で必要量の堆肥を生産する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関及び畜産農家と連携し、村内で生産する堆肥の増加に取り組む ・緑肥及び堆肥の助成は継続して行い、利用促進に努める 																																				

(3) 技術対策

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																																																	
① 病害虫対策	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同一斉防除を実施した ・植付時、培土時の粒剤の推進を行った ・病害虫防除の指導・助言を行った <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防除の必要性は周知しているが、農家毎で防除の実施や意識に差がある <p>食害発生後に病害虫対策を行う農家が露見される</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫防除講習会の開催及び病害虫防除の啓発に努める 																																																																																	
② 優良品種の選択・普及	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良種苗の導入と原種ほ設置による優良品種の普及に努めた ・採苗圃場から農家へ種苗の供給に努めた <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="439 719 1391 1102"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 (実績)</th> <th>H30 (実績)</th> <th>R元 (実績)</th> <th>R2 (実績)</th> <th>R3 (実績)</th> <th>R4 (実績)</th> <th>R5 (実績)</th> <th>R6 (実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林15号</td> <td>0.3</td> <td>0.3</td> <td>3.2</td> <td>3.4</td> <td>3.6</td> <td>2.8</td> <td>1.6</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>農林17号</td> <td>5.2</td> <td>5.5</td> <td>4.0</td> <td>3.4</td> <td>2.9</td> <td>3.1</td> <td>3.2</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>農林20号</td> <td>11.1</td> <td>7.8</td> <td>6.6</td> <td>5.8</td> <td>4.6</td> <td>3.3</td> <td>3.2</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>農林22号</td> <td>10.1</td> <td>7.0</td> <td>5.5</td> <td>6.5</td> <td>7.9</td> <td>8.2</td> <td>8.0</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>農林25号</td> <td>29.9</td> <td>22.0</td> <td>15.3</td> <td>11.3</td> <td>9.6</td> <td>9.5</td> <td>7.2</td> <td>3.7</td> </tr> <tr> <td>農林26号</td> <td>0.8</td> <td>0.3</td> <td>0.3</td> <td>0.3</td> <td>0.2</td> <td>0.3</td> <td>0.3</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>農林27号</td> <td>12.1</td> <td>16.3</td> <td>20.4</td> <td>22.3</td> <td>20.4</td> <td>21.3</td> <td>17.3</td> <td>22.1</td> </tr> <tr> <td>農林28号</td> <td>9.8</td> <td>12.0</td> <td>12.7</td> <td>11.8</td> <td>10.6</td> <td>9.5</td> <td>6.7</td> <td>3.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良種苗で2品種普及しているため、1品種の普及が必要である ・共同植付を機械植付で実施していることから、安定した種苗供給体制が必要である 		H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)	農林15号	0.3	0.3	3.2	3.4	3.6	2.8	1.6	1.1	農林17号	5.2	5.5	4.0	3.4	2.9	3.1	3.2	1.3	農林20号	11.1	7.8	6.6	5.8	4.6	3.3	3.2	1.3	農林22号	10.1	7.0	5.5	6.5	7.9	8.2	8.0	2.7	農林25号	29.9	22.0	15.3	11.3	9.6	9.5	7.2	3.7	農林26号	0.8	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.1	農林27号	12.1	16.3	20.4	22.3	20.4	21.3	17.3	22.1	農林28号	9.8	12.0	12.7	11.8	10.6	9.5	6.7	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・安定多品種の選定を行う ・採苗用ほ場の拡大、品種展示ほ場の設置検討及び農家へ採苗ほ場の重要性を周知する
	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)																																																																											
農林15号	0.3	0.3	3.2	3.4	3.6	2.8	1.6	1.1																																																																											
農林17号	5.2	5.5	4.0	3.4	2.9	3.1	3.2	1.3																																																																											
農林20号	11.1	7.8	6.6	5.8	4.6	3.3	3.2	1.3																																																																											
農林22号	10.1	7.0	5.5	6.5	7.9	8.2	8.0	2.7																																																																											
農林25号	29.9	22.0	15.3	11.3	9.6	9.5	7.2	3.7																																																																											
農林26号	0.8	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.1																																																																											
農林27号	12.1	16.3	20.4	22.3	20.4	21.3	17.3	22.1																																																																											
農林28号	9.8	12.0	12.7	11.8	10.6	9.5	6.7	3.5																																																																											

③栽培技術の普及等	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・病虫害防除などの基本的栽培技術を指導した・点滴かんがいやスプリクラーの貸出による干ばつ対策を行った <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・株出管理を推進するため、普及・啓発を行う必要がある・肥培管理(雑草防除)が徹底されていないことから収穫が困難な圃場がある・適期植付や肥培管理作業の徹底について指導する必要がある	<ul style="list-style-type: none">・適期肥培管理の推進により単収向上に努める・栽培技術講習会を開催し、栽培技術の効率化、普及拡大に努める・肥培管理の重要性を生産農家へ周知及び指導に努める
-----------	---	--